

2022年度学校評価(自己評価と第三者評価)

東海大学附属札幌高等学校

5～1のそれぞれの評価 (5:良い 4:概ね良い 3:どちらともいえない 2:やや不十分 1:不十分)

A～C (A:概ね良い B:どちらともいえない C:やや不十分)

分野	重点目標	成果と課題	2022年	2021年	2020年	改善策	自己評価の妥当性	改善策の妥当性
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	<p>●学校運営について、生徒は「学校は学校改革に取り組んでいる」などの項目で前年度より低い評価となり、全体評価で0.1ポイント下落した。保護者の全体評価は0.2ポイント下がり、「学校は学校改革に取り組んでいる」などで前年度より低い評価となった。</p> <p>●教職員の学校運営に関する全体評価は昨年度より0.1ポイント上がり、上昇した個別項目は、教職員の「誇りや愛着を持てる指導」と「教育への熱心な取り組み」であった。今後の課題としては、より明確な学校方針と教育目標を打ち出し、学校組織全体の中で、教職員一人一人がその責務を再認識して、学校改革に臨んでいくことである。生徒や保護者が学校の特色や改革を実感できるように、日々の教育活動に反映させていかなければならない。</p>	生徒 4.0	生徒 4.1	生徒 4.0	<p>●学校方針や教育目標を念頭におき、共通認識の下、教員間の連携を図りながら学校改革を進めていく。具体的には、授業改革や部活動以外の生徒による活動などソフト面の改革が本校にとっての大きな課題である。</p> <p>●生徒全員がiPadを所持する本格的なICT教育が始まってから2年が経過し、毎時間の授業におけるiPad活用が一般的となった。また、新型コロナの影響により、授業のみならず行事などにおいてもリモート活用の機会が増えたが、生徒たちの学びの成果まではまだ課題が残るものである。今後はより効果的なICT活用推進やアクティブラーニング型の授業など新しい学びを継続して実践していく。</p>	A (100%)	A (100%)
			保護者 3.9	保護者 4.1	保護者 4.0			
			教職員 3.5	教職員 3.4	教職員 3.4			
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<p>●学習指導は以前から評価が厳しく、特に「メディアセンター(図書館)利用」については、生徒・教職員ともに低い評価となった。ここ数年、メディアセンター利用を推進し、成果が出てきており、今年度は、コロナ禍の状況が徐々に緩和してきたのにも関わらず、利用者数や貸し出し数が増える傾向にあった。今後、メディアセンター利用数を増やすために、生徒たちへの積極的な働きかけが必要となる。</p> <p>●生徒の学習指導評価は図書館利用を除く多くの項目で向上している。コロナ禍ということもあったが、ここ数年で学校全体として取り組んできたICT教育推進の成果が出始めてきたことが、結果に反映していると考えられる。一方で、保護者・教員の学習指導各評価項目については全体的にやや低下傾向にあり、その対応が急務である。特に、保護者の全体評価が0.1ポイント減少したことを真摯に受け止め、即座に対策を講じなければならない。</p>	生徒 3.5	生徒 3.5	生徒 3.5	<p>●メディアセンターは本校における「知の拠点」であり、新型コロナの収束にとともに、授業や課題学習でより有効に活用し、メディアセンターの利用を大いに推進していく。</p> <p>●学習課題については、生徒の学習進捗状況を教員がオンラインで把握して指導する取り組みが定着しており、成果をあげている。毎時間授業でiPadを活用することが当たり前となり、今後はClassiやロイロノートのより効果的な活用を目指す必要がある。部活動生徒の学習習慣確立についても顧問の協力の下、継続して進めていく。授業規律など基本的な部分についても指導を統一させ、学力向上を目指して満足度を高めていかなければならない。</p>	A (100%)	A (100%)
			保護者 3.4	保護者 3.5	保護者 3.5			
			教職員 3.3	教職員 3.3	教職員 3.3			
クラス指導	退学者を出さないクラス作り・生徒同士や教員との意思疎通のある活気あるクラス作り	<p>●生徒の全体評価は前年より0.1ポイント上昇し、特に「生徒間の人間関係」という項目では4.3点という例年よりも高い評価となった。「学校・クラスは楽しいか」という項目に関しては、生徒・保護者ともに安定して高い評価を得ることができている。退学者を極力出さないために、生徒一人ひとりを大切に、生徒にとって「楽しい学校」を目指していかなければならない。</p> <p>●いじめや人間関係のトラブルはいつでもどこでも起こりうるものであり、日常的に予防的対応をしつつ、一旦事が起れば、迅速な対応を組織的に行う必要がある。問題を早期発見するためには、些細な兆候を見逃すことなくいじめやトラブルとの関連を常に考慮し、早い段階から複数の教員で的確に関わりを持つことが重要である。</p>	生徒 4.2	生徒 4.1	生徒 4.1	<p>●学校は、すべての生徒にとって安心・安全が確保された居場所であるべきである。そのため、学級・学年におけるより良い人間関係の構築が必要となる。そのため、学級担任のみならず、健康推進室やスクールカウンセラーなどとも積極的にかかわりながら予防的な生徒支援を心がける必要がある。</p> <p>●ハイパーQU(学級集団アセスメント)の結果を有効に活用するなど、生徒のわずかな変化も見逃さず、いじめ等を小さな芽のうちに摘み取っていく必要がある。そのため常にアンテナを張り、生徒一人ひとりの多様性を尊重した指導を実施していく。保護者に対しても日頃から信頼関係を築き、必要に応じて早期に連携を図り、相互理解に努める。</p>	A (100%)	A (100%)
			保護者 3.9	保護者 4.0	保護者 4.0			
			教職員 3.9	教職員 3.9	教職員 3.8			
生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	<p>●本校は伝統的にしつけ教育に重点を置いており、「身だしなみ」などの項目で生徒・保護者ともに高い評価を得られているのは、長年の教育成果がある程度認められていると考えて良いと思われる。また、生徒の自己評価も高く、全体評価として前年度より0.1ポイント上昇した。</p> <p>●保護者の全体評価は2年連続で0.1ポイントずつ下落している。その要因としては「礼儀・挨拶」が以前と比較すると緩くなってきたためではないかと推測される。</p> <p>●教職員は全体評価で0.2ポイント下落した。特に、「登下校時のマナー」「欠席・遅刻・早退を減らす」などの項目で厳しい評価となった。新型コロナの影響が大きかったのは確かであるが、生徒たちの健康に配慮しながら、出席率を上げていくことが今後の課題である。</p>	生徒 4.5	生徒 4.4	生徒 4.4	<p>●「身だしなみ」や「挨拶・礼儀」などの基本的な教育を徹底することにより、ルールを遵守することの重要性を理解させていかなければならない。今後も生徒たちの自律を促しながら、生活指導を継続して行っていく。自主・自律心を育む指導を教員も意識する必要がある。</p> <p>●社会ルールやマナーを育むため、毎日のSHRや清掃活動、部活動、全校での地域清掃活動などあらゆる機会をとらえて意識付けや指導を行っている。校内では明るい挨拶が交わされ、外部の方からの評価も高いと思われる。一方、公共の場でのTPOに応じた振る舞い、他者への思いやりや多様性の尊重など、改善していかなければならない点も多い。</p>	A (100%)	A (89%)
			保護者 4.1	保護者 4.2	保護者 4.3			
			教職員 3.6	教職員 3.8	教職員 3.8			

分野	重点目標	成果と課題	2022年	2021年	2020年	改善策	自己評価の妥当性	改善策の妥当性
進路指導	目標設定と進路決定の早期化	<ul style="list-style-type: none"> ●全体評価としては、生徒・保護者・教職員すべてが前年度を上回った。特に教職員は0.6ポイントも上昇した。おもな要因として、iPadを利用したICT教育が軌道に乗った結果、進路に関する情報を素早くダイレクトに生徒・保護者に届けることが可能になったことが挙げられる。 ●本校は東海大学の付属校であり、大学等の上級学校進学を目指す学校である。東海大学の付属高校であるメリットを最大限に生かしながら、生徒の進路実現のために、多様な説明会や懇談・面接を展開している。 ●「進路に関する指導・面接」について、生徒の評価が0.1ポイント上昇している。多様な進路行事や面談、東海大学や新入試の情報などを様々な場面で適宜提供してきたことなどが反映していると考えられる。今後もより効果的な方法を模索しながら、進路指導計画を立案・実行していかなければならない。 	生徒 4.3	生徒 4.2	生徒 4.2	<ul style="list-style-type: none"> ●本校は、大学をはじめとする上級学校への進学率は90%を超えている。大学進学を目指す生徒が多く集まっているので、東海大学を中心とし、3年間で系統立てた進路指導を今後も継続していく。 ●東海大学付属推薦による進学の特長を積極的に説明するなど、生徒や保護者に進路決定のための十分な情報を提供していく。東海大学以外の大学進学希望を含む多様な進路希望の生徒にも対応すべく、研修や情報収集を重ね、きめ細かな進路指導の継続を進めていく。 ●進路に関する情報は、生徒のみならず保護者に対してもiPad等を通じてより積極的に提供していく。 	A (100%)	A (89%)
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●「部活動の指導に熱心に当たっている」という項目に関する評価は、生徒(4.4)、保護者(4.2)、教職員(4.5)と依然として高い。顧問個人の熱意頼りにならないように、施設・設備の充実など課題も多い。 ●「委員会活動や係の仕事への取組」は、教職員の評価は例年低くとどまり、委員会活動における生徒の積極的な取組を進めていく必要がある。 ●保護者の特別活動に対する全体評価は0.1ポイント上昇したが、「本校全体の教育活動全般に満足しているか」については、3.9となり、数年ぶりに4.0を割り込む結果となった。特別活動のみならず、学力向上、安全対策、生徒の人間関係作りなど、改善すべき点を明確にし、早急に対策を講じなければならない。 	生徒 4.2	生徒 4.1	生徒 4.1	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナが収束に向かいつつあるが、今後も部活動やその他の活動における感染対策を徹底し、生徒や教職員の情熱をバックアップできる学校でありたい。文武両道の実践を推進し、戦績だけでなく、部活動や委員会活動を通じた人間教育を重視した指導を行っていく。 ●コロナ禍で、様々な学校行事や委員会活動などが制限されてきたが、その状況が緩和されつつある。今後も様々な活動を通じて生徒や集団を育む視点を共有し、すべての生徒が活躍する場をいかに作り出すかを教職員一人ひとりが考えながら、教育環境の充実を目指す。 	A (100%)	A (100%)
第三者評価委員意見		<p>(※コロナ禍のため、第三者評価委員会が開催できなかったため、過去の意見を掲載する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ルール、マナーを守り、礼儀正しい生徒が殆どであり、地域の中学校生徒の良き手本となっている。同じ地域にある高校が、教育環境や設備に恵まれ、品行方正な生徒を育む学校であることは大変有難いことと思うので、更なる飛躍を期待します。 ●学習指導の評価の低さがやはり気になります。ティーチングアワードの授業参観では、興味深い授業が多くレベルアップを感じたが、指導する側の教師の評価が思っていたよりも低く、自信を持って取り組んでもらいたい。 ●生活指導においては、近所の方からも「東海の生徒はちゃんとしている」とお褒めの言葉をいただいたこともあり、その通りだと感じているが、下校途中スカートを短くしている生徒を見かけたこともあり、一人の生徒によって、その学校のイメージも変わってくる。身だしなみや礼儀は東海生が誇れるところでもあり、すべての生徒が東海の生徒だと誇りを持ち続けるには一人一人の自覚が必要である。学内外にかかわらず、継続した指導をしていただきたい。 ●進路指導で生徒の評価が高いのは、学校・教師との信頼関係が良好であると思われ、大変喜ばしいことである。 ●学校説明会時の進路説明で、大学進学先等の説明は良いと思いますが、就職者の正確な情報も必要と思われる。また、高3の早期に推薦により大学進学が決定する状況で、卒業まで社会人としての心構えなどの指導も取り入れてほしい。 ●総合的に高い評価であるが、改善策についてはもう少し具体性を持ったものを期待したい。生活指導では生徒の見本となるべくルール、マナー、振舞いを今以上に教職員に身につけていただきたい。進路指導では、生徒の個性を十分見極めたきめ細かい指導を続けて貰いたい。 ●毎年どの項目も高評価が出ていて素晴らしいと感じている。自分の進路や生き方を選択しなければならぬ年代にとって「東海大学」への進学という安心な柱を持ちつつ、他の多くの選択肢を検討できることは生徒や保護者にとって大きな魅力であるし、今後さらに期待したい。 ●コロナ禍での学校生活で生徒達もいろいろな意味で疲弊しているかと思いますが、魅力ある東海大札幌高をアピールして生徒達が明るく、そして楽しく過ごせるような学校になるようにお願いします。 ●アンケートの回収率を高める必要がある。 						

アンケート回収数

教職員:43人 生徒:802人/932人 保護者:588人/932人